

イプシロン6号機、初の打ち上げ失敗 JAXAが破壊を指令

2022/10/12 10:53 (2022/10/12 11:19更新) | 日本経済新聞 電子版



打ち上げられた小型ロケット「イプシロン」6号機=12日午前9時50分、鹿児島県肝付町の内之浦宇宙空間観測所

宇宙航空研究開発機構（JAXA）は12日、同日午前に小型ロケット「イプシロン」6号機を内之浦宇宙空間観測所（鹿児島県肝付町）から打ち上げたが、破壊する指令を出したことを明らかにした。何らかのトラブルが生じたとみられる。2013年の初号機打ち上げ以来、イプシロンの打ち上げに失敗するのは初めて。

イプシロン6号機は同日午前9時50分、企業や大学などの実験用の人工衛星や、イプシロンで初の商業衛星であるQPS研究所（福岡市）の衛星2基を搭載して打ち上げられた。発射後に何らかのトラブルが起きたとみられ、JAXAは情報収集を急いでいる。

JAXA主体のロケットの打ち上げ失敗は、03年の国産大型ロケット「H2A」6号機以来となる。その後は50回以上続けて成功していた。日本のロケットは他国に比べても成功率の高さで知られている。小型衛星などの打ち上げ需要が世界で高まる中での失敗は、中長期的な受注獲得に影を落とす可能性がある。

過去の主なロケット打ち上げの失敗		
1998年	H2・5号機	第2段エンジンの燃焼不足で、通信技術衛星を目的の軌道に投入できず
99年	H2・8号機	第1段エンジン破損で指令爆破。運輸多目的衛星の打ち上げに失敗
2003年	H2A・6号機	補助ロケットが分離できず推進力不足で指令爆破。情報収集衛星の打ち上げに失敗

政府はイプシロンを大型ロケットの「H2A」や「H2B」などと並び、日本の主力の「基幹ロケット」と位置づけている。液体燃料ではなく固体燃料を使ったロケットで、安全保障上の重要性も高い。

イプシロンが対象とする小型衛星の打ち上げサービスは参入企業が多く、国際的な競争が激化している。政府はロケットを持たない新興国などから打ち上げの受注を狙っていたが、先

行きが見通せなくなった。イプシロンは将来、IHIエアロスペース（東京・江東）への移管も予定されているが、影響が懸念される。

国内では[キヤノン電子](#)などが出資するスペースワン（東京・港）やインターステラテクノロジズ（北海道大樹町）も衛星打ち上げ用の小型ロケットを計画している。21年には[ホンダ](#)も小型ロケットへの参入を表明した。国の宇宙開発の「看板」となる基幹ロケットの打ち上げ失敗は、今後の企業活動にも打撃となりかねない。

【関連記事】

- ・ [H3ロケット開発、「魔物」と戦う 打ち上げ再延期](#)
- ・ [損保ジャパン、人工衛星の打ち上げ補償 失敗に備え](#)

NIKKEI Briefing
ニュースを深く知る [ニュースレター登録はこちら](#)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.